

「偕に拓き共に築く」を掲げて

茨城県守谷市と常総市に位置する大八洲^{おおやしま}開拓は、利根川と鬼怒川の合流地に近い湿地帯と、関東ローム台地の原野に位置し、強酸性土壌の土地だ。

満州の大八洲開拓団が、戦後1年間にわたる流浪避難の末、生き残った40戸が入植したのが46年11月。

当初から、全面共同で開墾と耕作に当たったが、47年から7年間、相次ぐ川の氾濫などの水禍に見舞われ、収穫は一粒もないほどの窮地に立たされた。

55年ようやく念願の堤防が完成し、再建の道が開けたかに思われたが、58・59年と続けて台風で堤防が決壊し、田畑が押し流され、住宅や畜舎など全ての建物が全半壊という深刻な打撃を受けた。

しかし、組合の共同体制で住宅、畜舎など建設を進めて難局の打開を図った。自治体、開拓組織などの指導援助もあり、堤防は1年で復旧され、奇跡的な復活を遂げた。

水田面積は100haに達し、58年にはライスセンターが設置された。

満州開拓の時から有畜農業を目指してきたので、入植翌年から鶏、豚、乳牛など様々な家畜を導入して共同飼育に取り組んだ。個人経営に移行した58年頃から、養豚や酪農の経営に集中してきた。

また、乳雄肥育から始まり、肉用牛の一貫経営も盛んになった。

2000年に入ると、乳製品加工所として「ミルク工房もりや」がオープンし、ヨーグルトなどの乳製品の製造・販売をしている。

59年に入植50周年を記念して、農協敷地内に開拓碑が建てられた。

「偕に拓き共に築く」の碑文は、初代組合長佐藤孝治氏の執筆による。

大八洲（おおやしま） 08-224-1

①調 査 日 令和4年5月17日

②所 在 守谷市板戸井

③地 区 の 沿 革 満州から引揚者らが昭和21年11月に入植した。

④設 置 年 月 日 昭和51年11月

⑤設 置 者 大八洲開拓農業協同組合
組合長 佐藤 孝治

⑥碑 文（表 面） 皆に拓き共に築く

⑦碑 文（裏 面） 大八洲開拓由来の記

昭和十四年一月満州第一次弥栄村開拓団の分村として、三江省樺州県 千振街柳毛河に入植大八洲開拓団が結成された。苦汁六年余開拓団の基礎が漸くまとまりかけた昭和二十年八月、不慮の時局に際会し満州開拓の夢は消え一ヶ年に亘る流浪避難の生活を経て、翌二十一年六月から九月までに引揚げ帰国すると同時に、何もないみすぼらしい姿で、当地に再度の開拓に望みを託して入植した。昭和二十一年十一月十日である。以来三十年あらゆる苦難を乗り越えて今日の基礎をつくり上げることの出来たかげには、組合員の言語に絶する血と汗と涙の努力の積み重ねた結果でもあるが、国策としての開拓行政を基本に県の適切な施策、入植受入れの地元市町村当局の懇切な援助、更に関係各機関・各種団体・開拓者組織の指導、それにも増して地元住民各位の数々の温情あふるる協力の賜であると深く感謝する。

この数々の厚い恩恵に報いる道は只一つ私ども心を一にし更に前進を続け、時代に即した組織農業をつくりあげる事にあると信ずる。入植三十周年に当り各位の恩情に深く感謝するとともに、未知の前途を切り開く決意を披瀝し記念の言葉を記す。

大八洲開拓農業協同組合

組合長 佐藤 孝治

⑧現 在 の 状 況 大八洲開拓農業協同組合敷地内で管理されている。